

「取り崩し」は年4%

90歳まで生きる人が珍しくなる一方で、「年金空白」の時代が到来する。
老後の「貯蓄の枯渇」を回避するために、60歳までに貯蓄はいくら必要で、毎年いくらずつ取り崩せばいいのか。

東京都内在住のある夫婦は、妻が40代、夫が50代。定年後の生活が気になり始めている。

「10年以上、投資をしてきたが、思つたようなパフォーマンスではない。今のうちから退職後の老後の資金繩りに悩む人は多いことを考えておかないと」

世論調査（金融広報中央委員会、2011年）によると、「老後の生活が心配」と答えた世帯は

貯蓄の取り崩しだろう。厚生労

「定額」よりも「定率」

年をとれば病気のリスクがあり、入院や手術などで予想外の出費もありうる。老人ホーム

に入れば月に15万円以上の入居費のほかに、紙オムツ代など様々な備品も必要で、年金だけでは心もとない。

60歳になるまでにいくら貯蓄できることか、退職後の運用でどこまで長持ちさせられるかが、老後の人生を大きく左右する。

一定の取り崩しと運用で長生きリスクを緩和

75歳まで年率3%で運用し、年に4%の引き出し。
75歳以降は毎月12万円を引き出した場合

75歳まで年に4%の引き出し、運用はない。
75歳以降は毎月12万円を引き出した場合

残高ゼロになる年齢

貯蓄3000万円

年率3%運用で4%引き出し	運用しない
120万円	118万円
101万円	63万円
2572万円	1638万円
92歳	86歳

貯蓄4000万円

年率3%運用で4%引き出し	運用しない
160万円	157万円
136万円	85万円
3433万円	2188万円
98歳	90歳

後格に使う時代
〔毎月12万円の引き出し〕

勤省によると、会社員と専業主

研究所の野尻哲史所長は、「運

用が難しくなる70代後半までに

貯蓄ができるだけ残しておき、

資産を長持ちさせるべきだ」と

主張する。

野尻さん

「気力・体力のあるうちは運用

を続けたほうがよい。75歳くら

いまでは『定率』で引き出しつ

つ運用し、75歳以降は毎月『定

額』を引き出して使うのがおす

すめです」（野尻さん）

75歳まで「定額」ではなく「定

率」で引き出すのは、取り崩し

すぎを防ぐためだ。投資環境が

悪い時に同じ金額を引き出し続

けると、資産が目減りしている

ので、運用残高も大きく減って

しまうことになる。

実際に、運用せずに引き出し

た場合と、年率3%で運用しな

がら引き出した場合を比較して

みた上のグラフ、表。60歳時

点の貯蓄額が4千万円、3千万

円、2千万円のそれぞれの場合

で、「年金23万円に12万円ほど

を足して、毎月35万円ほどで生

活する」ことを想定し、75歳ま

では年に4%で引き出し、それ

以降は毎月12万円ずつ引き出す

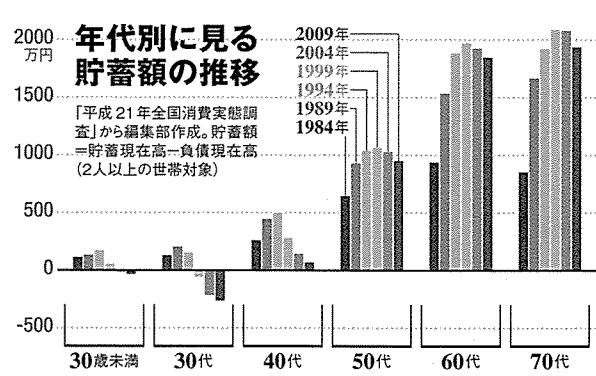
として試算した。

「まず年間で、年金ではカバー

できない金額を推定し、それに

元手多いと伸び大きく

それぞれで残高ゼロになる年



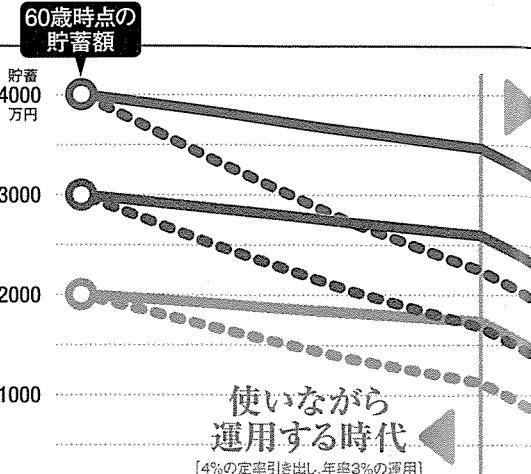
年齢と、60歳、75歳で1年間にいくら引き出せるかを見てみよう。運用をしない場合、残高がゼロになるのは、60歳時点の貯蓄が2千万円の人は82歳、3千万円の人は86歳、4千万円の人でも90歳ごろ。運用をする場合、残高がゼロになるのは貯蓄2千万円の人は86歳、3千万円の人は92歳、4千万円の人では98歳まで持つ。2千万円の人でも4年以上、4千万円の人は8年も期間が延びる。

引き出せる毎年の金額を60歳と75歳時点とで比べると、運用をしない場合は、貯蓄2千万円の人は60歳で79万円だが75歳では41万円に、3千万円の人は18万円から63万円に、4千万円の人は157万円から85万円になる。運用をすれば、貯蓄2

千円の人は60歳では80万円だったが75歳では66万円に、3千円の人は120万円から10万円に、4千万円の人は160万円から136万円になる。0万円から136万円になる。「定率」で引き出すため、運用の成果次第で引き出し額は上下する。そのときは、「運用成績が良かつたらボーナスと思って旅行に行く、悪かつたらやめていきます。柔軟に対応することがポイントです」(野尻さん)。

千円の人は60歳では80万円だったが75歳では66万円に、3千円の人は120万円から10万円に、4千万円の人は160万円から136万円になる。0万円から136万円になる。「定率」で引き出すため、運用の成果次第で引き出し額は上下する。その後はお金が急に必要になり、株価が下がっているときに売却しないといけない可能性もあります」とアドバイスする。

しかし、退職を目前に控えた世代はまだ恵まれている。40代以下の老後の貯蓄は枯渇リスクがはるかに高い。



	60歳時点の貯蓄額	75歳時点の貯蓄額
4%の定率引き出し・年率3%の運用	4000万円	1088万円
使いながら運用する時代	3000万円	861万円
運用しない	2000万円	82万円

（データ：セイリティ退職・投資教育研究所の野尻哲史さんの資料をもとに編集部作成）

退職後は株式を減らす

今の環境で年率3%の運用は難しいと考える人もいるかもしれないが、「リーマンショックから立ち直った投資信託もあり、決して非現実的ではない」と野尻さん。

退職後の運用は、できるだけリスクをとらないことがポイントだ。退職後の資産運用に詳しいニッセイ基礎研究所金融研究部門の梅内俊樹主任研究員は、「退職後は株式の割合を少なくすべきです。20代の頃は退職まで40年ほどあるので、多少リスクをとつて高いリターンを期待できる株に投資してもよいでしょう。資産が減つても取り戻す期間もあります。しかし、退職後はお金が急に必要になり、株価が下がっているときに売却しないといけない可能性もあります」とアドバイスする。

しかし、退職を目前に控えた世代はまだ恵まれている。40代以下の老後の貯蓄は枯渇リスクがはるかに高い。

来年4月、男性の公的年金の受給開始年齢が61歳に上がり、「年金空白」時代に突入する。今後は受給額も下がり、保険料は上がる。企業年金も期待しない。株式市場も低迷を続け、預貯金の金利も1%に届かない。給料も伸び悩み、資産を増やすづらい市場環境なのだ。00年前後からの30歳未満と30代の貯蓄額は、上の世代が30歳前後だったころの貯蓄額とは全く逆の動きをしている=右ページ下のグラフ。

定価980円(税込)/A4判変形
オールカラー116ページ

13日間にわたる福山雅治のロンドン取材を完全収録

選りすぐりの「撮りおろしフォト」30点

AERA Mook **LONDON 2012**

福山雅治×ロンドン五輪
祭典とエコ、そして人々

好評発売中

編集部 永野原梨香

ASAHI お求めは書店、ASAHI(朝日新聞販売所)、朝日新聞出版
朝日新聞出版 ウェブサイト <http://publications.asahi.com/> でどうぞ

30歳未満は04年から、30代は99年から、貯蓄額がマイナスに転じている。特に30代が顕著だ。94年には158万円以上の貯蓄があつたが、09年にはマイナス267万円まで減った。

貯蓄すらできない若者

40代はなんとかプラスだが、その額は心もとない。94年には504万円あつた貯蓄は、09年には75万円に落ち込んでいる。

「投資教育などを充実させるべきではないでしょうか」

大阪大学社会経済研究所のチ

ヤールズ・ユウジ・ホリオカ教

授も次のように指摘する。

「今の年金制度は、後に生まれ組みになっています。その仕組みを抜本的に変え、今の若い世代でも払った保険料に見合った給付がもらえるようにすべきです。自宅を担保にお金を借りる『リバースモーゲージ』を含めた民間の終身年金を充実させることも、長生きリスクの解消によって、自分の生活を自分で守るという構えは必要だろう。運用方法は現役時代と同じではダメ。國も、各人の自己責任で運用させようと思っているのだ。それを支える社会の『インフラ』を作りも急務だ。」